

うるし塗りの工程とニービ（細粒砂岩）の使用について

首里城のうるし塗りでは、強固な下地を形成するためにニービ土（黄褐色～茶色をした細かい粒からなる砂層からとれる土）を原料として使用していますが、正殿の柱を支える礎石はニービが固結した塊であることから、火災により破損した礎石を細かく砕きニービ土と混ぜることで、新しく作る正殿のうるし塗装の原料として使用できます。

なお、新しく使用する材料であるため、まずは紫外線の劣化等の影響を受けにくい正殿の内部塗装として使用するとともに、外部塗装への使用については試験結果等により今後判断する予定です。



首里城正殿



上塗（弁柄+桐油）



中塗2（弁柄+桐油）



中塗2の塗料作成（弁柄+桐油）



中塗1研（サンダーにてザラツキをとる）



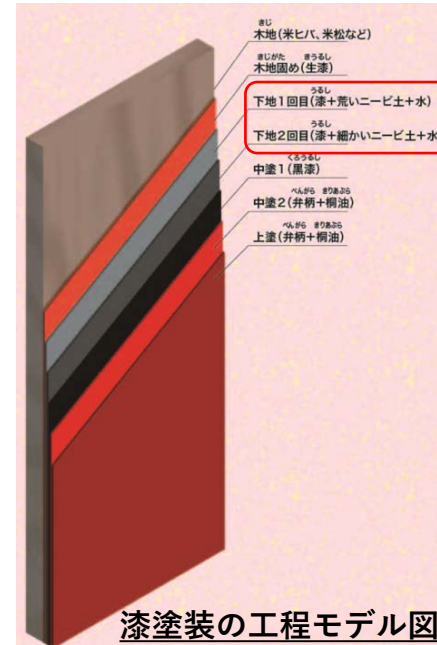
中塗り1（黒漆）



下地作り2回目（漆+ニービ土+水）



木地固め（生漆を浸透させ木地を補強する）



漆塗装の工程



下地作り（漆+ニービ土+水）
※ニービ土は沖縄県内にある砂質土壌です。

うるし塗りの工程でのボランティアの位置づけ



首里城正殿



礎石（ニービ：細粒砂岩）



正殿内部

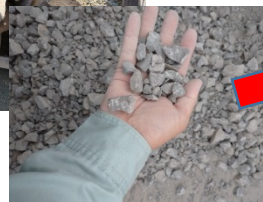
うるし塗り



下地塗り



下地作り（うるし+ニービ土+水）



破損した礎石を機械で粗割



ボランティアで粉状にする